

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470400732
法人名	社会福祉法人 紫雲福祉会
事業所名	グループホーム おおつるの家
訪問調査日	平成20年 7月22日
評価確定日	平成20年10月 9日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4470400732
法人名	社会福祉法人 紫雲福祉会
事業所名	グループホームおつるの家
所在地	日田市大鶴町2267-7 (電話)0973-26-8585

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年7月22日	評価確定日	平成20年10月9日

【情報提供票より】(平成20年7月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年7月7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤5人, 非常勤4人, 常勤換算	7.85人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	73歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大鶴歯科 日野医院 斉藤医院 井上鶴川堂
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 県道から少し入った平地に建てられたグループホームで、木造の温かな感じのする建物である。
内部は、光と風を十分に取り入れられる造りとなっている。
- 2 利用者本位のサービス、高齢者の尊厳を大切に、という理念を職員がよく理解しており、理念に沿ったケアが行われている。
- 3 利用者の身体機能の維持に心を配っており、歩行のできない利用者も車いすで外気浴を行ったり、アクティビティに力を入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価受審後の取り組みが遅れ、未だ改善計画を立てたばかりの段階である。改善への早急な取り組みが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んだ。自己評価を行う中での気づきを、改善計画を立て具体的な改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を、地域住民の代表、市職員、地域包括支援センター、利用者、利用者の家族が参加し、定期的に開催しており、事業所の取り組みや外部評価の結果を報告している。地域住民の災害時の連絡網 酒造会社の職員などとの協力関係など地域ぐるみの協力体制も構築されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回の家族会で意見、苦情を聞く機会を設けているとともに、運営推進会議にも家族代表が交代で出席している。また受診時や面会時に職員が意見を引き出す働きかけをするよう心がけている。出された意見、苦情はグループホームからのお便り送付時に家族にフィードバックしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の行事では、必ず案内があり、お接待やふるさと祭など、利用者と共に参加している。ホームのお茶会や映写会、カラオケ大会など、地域の人々と交流することにつとめている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本にして、全職員で、地域密着型サービスの意義を考えたグループホーム独自の目標および方針を立てている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、業務開始前に理念の復唱を行い、月一回の職員会議において理念について話し合いを持っており、全職員の共有と実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事では、必ず案内があり、お接待やふるさと祭りなど、利用者とともに参加している。ホームのお茶会や映画会、カラオケ大会など、地域の人々と交流することにつとめている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んだ。自己評価を行う中での気づきを、改善計画を立て具体的な改善に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域住民の代表、市職員、地域包括支援センター、利用者、利用者の家族が交代で参加し、事業所の取り組みや外部評価の結果を報告し、出された意見や助言を、サービス向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や市社協主催の研修会や講演会に積極的に参加し、市職員との連携を図っている。また、2ヶ月に1回、市職員と地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し意見交換ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付時に、1人ひとりに、手紙や写真を送付し利用者の暮らしぶりを伝えている。また、受診時は家族同伴とし、情報の共有をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会で意見、苦情を聞く機会を設けているとともに、運営推進会議にも家族代表が交代で出席している。また受診時や面会時に職員が意見を引き出す働きかけをするよう心がけている。出された意見、苦情はグループホームからのお便り送付時に家族にフィードバックしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用者は退職予定者在職中に1週間～10日ほど前に出勤し、引き継ぎを行いながら、利用者との馴染みの関係を作れるよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は質の向上、確保に向けた職員の育成に熱心で、外部研修や法人の研修などに職員の受講を勧めているが、個々の段階に応じた研修計画が立てられていないため、ともすれば個人に任せられた受講となり、偏りが生じている。	○	パートの職員も含めて、各自に応じた、段階的、計画的な研修の機会を確保できるような取り組みが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久大ブロックと老人福祉施設協議会のグループホーム協議会に加入しており、相互訪問実習や研修会、情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、家族と本人に見学に来てもらい、入居決定後は居宅訪問するなど、馴染めるように働きかけている。ほとんどの利用者が法人のデイサービスやヘルパー利用の方で、馴染みの関係ができていている場合が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、生活歴や日常の関わりの中で、本人の得意分野で、利用者が主人公になれるように配慮し、お互いに協働しながら、支え合う関係づくりができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の表情や言葉などから、意向や願いを把握し、ケア会議で1人ひとりのことについて話し合いを持ち、全員で共有して日常のケアに生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや希望をふまえ、毎月の会議で、全職員による意見交換をしながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1年に1回見直しを実施しており、現状に即した計画の見直しがされていない。	○	定期的に3～6ヶ月に1回は見直しをするともに、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向を確認することが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診時の送迎や、亡くなられたご主人の月命日に自宅の仏壇にお参りに行き、帰宅願望のある方の自宅訪問など、きめ細やかに柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医へ送迎を行い、家族と病院で待ち合わせ受診は家族と職員が同席し、情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針を定め、利用開始時に家族に説明をしている。医療行為が必要なケース以外は看取りもする方針を全職員で共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用屋の誇りやプライバシーに対する配慮、個人情報の取り扱いに対する意識が全職員に徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるものの、その日の体調や希望で、活動内容を変えたり、個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりにあわせた食事形態や介助がされており、職員も同じテーブルを囲んで和やかな雰囲気である。準備や片付けも、利用者と職員と一緒にしている。週1回はお弁当の日、時には外食などをもうけたり、変化をつけて楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前、午後に分かれて、1人ひとりの希望や体調に合わせて入浴時のマンツーマンでの会話や関わりを大切にしており、楽しく入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や日常の暮らしの中で得た情報を、全職員で共有し、1人ひとりが主人公になれる場面の設定をしたり、役割、楽しみごとの支援に生かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や本人の体調に合わせて、買い物や散歩に出かけている。車いすの人も事業所の中だけで過ごさずに1日1回は外気に触れるよう支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠をせず、センサーを設置している。外出するときには、さりげなく付き添うなど、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の避難訓練を実施するほか、事業所内で毎月避難訓練を実施している。また、地域住民との合同訓練も実施しており、地域との連絡網や、非常時の水、食料品も3日分常備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて栄養や水分摂取ができるように工夫しているが、専門家のチェックがなく、必要量の把握が十分にできているとは言えない。	○	専門職に献立を見てもらい、全職員が、おおよその摂取カロリーを知り、食事摂取量、水分チェックを行い、利用者の栄養状態の把握をすることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、テーブルやソファの配置や生花など、家庭的な雰囲気で居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持ち込みは少なく、シンプルであるが、それぞれの居室が個性的で、暖かい雰囲気に整えられている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおつるの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県日田市大鶴町2267-1
記入者名 (管理者)	樋口 順子
記入日	平成 20 年 7 月 11 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の行事に参加する。定期的な保育園児との交流。散歩時の近隣の方々との挨拶、会話。地域の行事の場所提供(餅つき)。慰問開催時の地域の方々へ参加呼びかけ(茶話会として)。定期自宅訪問で、かつての本来の地域住民との交流の継続。	○ 介護アドバイザーとしての、地域への還元を申し出ているが、公式な依頼はまだない、個人的なアドバイスはその都度している。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等困難な問題に遭遇したとき、理念に戻って考えるようにしている。穏やかで安らぎのある生活の実現の一つとして、仏前で手を合わせる光景が日常となっている。そして入居者の中の一人は、ご主人の命日に毎月職員とお参りに行っている。	○ 全員が暗唱できるまでは至っていない為徹底する。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を正面に表示して誰でも見られるようにしている。運営推進会議に、消防団の代表の方に参加していただき、合同避難訓練、地域住民による、おおつるの家緊急連絡網作成が実現した。地区の一員として、町内会費を徴収して迎え入れたらどうかという住民からの声が上がっている。	○ 地域住民と家族の交流は、まだなされていないが、地域とのかかわりの状況は、その都度写真を添えて家族へお知らせしている為把握はしていただいている。今年の餅つき大会には、家族の方への参加を呼びかけ取っ掛かりとしていきたい。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所のおばさん達が立ち寄り、皆さんとお茶を飲んで話してください。散歩時は、向こうから先に声掛けをしてくださったり、花や野菜のお土産を頂いたりすることもある。野菜づくりの指導も継続してやってくださっている。	
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に、向こうから声をかけてくださるようになる。御接待の時入居者の方々に対する席の配慮等も来てくださることがあった。職員の日頃の挨拶は近所の方々から良く褒められている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等 の暮らしに役立つことがないか話し合い、 取り組んでいる	毎月行っている避難訓練の後、緊急時の対応の訓練を行 い、必要時に何時でも貢献できるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでい る	毎回、職員全員に自己評価を実施し、自分たちの日常業務 の意味づけを確認している。評価結果は、職員会議で話し 合いの場を設け改善すべき点は改善に向けての目標を立て るようにしている。	○	今年は、各項目を深く掘り下げた話し合いの場を計画して いる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	職員は、それぞれの職種や立場の違う参加者の方々の生の 意見を聞くことで、日常業務を多方面から考えられるよう になってきた。自治会長さんの口利きで、昼間の緊急時の避難 対応に、近くの酒造会社の職員さん達の援助を受けられるよ うになった。		前回の会議での職員からの要望で、実際連絡網を使って の避難訓練の実施について、自治会で話し合っていた けるようになった。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町 村とともにサービスの質の向上に組み 組んでいる	市や医師会、保健所等で企画されている研修会や公演には 積極的に参加し、報告書提出、職員会議での報告等で、情 報共有を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう 支援している	必要性は感じ、学ぶ意欲もあるが、活用できるまでの知識に は至っていない。資料収集や、会合に参加することで学んで いきたい。	○	家族を含めた、勉強会の開催を計画する予定である。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内で虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、虐待についての、最新の情報を元に勉強会 を開き、実際の業務での陥りやすい行動などをチェックした。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内見学で雰囲気を感じていただいた後、ご家族の気持ちをお聞きした上で、ここでの理念を説明させていただく。入所前の自宅訪問にて再度家族、親族の方と話し合いの場を設けていただき、契約を結ぶ。その場には、ご本人の同席を原則としている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員との常日頃のコミュニケーションにて、言葉にならない思いを引き出せるように、代弁者となり、申し送りや伝言板で反映している。運営推進会議には、体調の許す限り利用者が参加し、職員が話しやすい雰囲気提供している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りに、写真を同封し、より分かりやすい状況報告に心がけている。原則として、通院は家族の方の同席を願うことで、情報の共有と疎遠にならないような関係作りを心がけている。年2回の家族会で預かり金の状況確認をいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会にて家族の方々の意見、苦情を聞く場を設けている。通常は家族会の会長、副会長の窓口となってもらっている。法人の苦情相談窓口を設置して速やかな対応を行うシステムを確立している。面会時必ず職員が意見等を聞けるような、対応に心がけている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	伝言板に記載されている意見や提案に関して、その日のうちに答えられることは返答を記入し、それ以外は運営者と相談の上、記入、もしくは月2回の職員会議にて報告する。毎月提出の振り返りシートへの返答は、運営者、管理者それぞれが記入している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	運営者並びに管理者の24時間体制の待機、シフト作成前に各自の希望休日を確認し、それ以外の緊急招集には、臨機応変に対応できるようにしている。職員間の関係がうまくいっているので、緊急な調整もスムーズに行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者による、適材適所の人事がなされているので、問題は起こっていない。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況に応じて必要な研修は全て参加させてもらっている。自由参加の研修及び、個人で見つけてきた研修にも、希望者には、勤務の変更をして、参加できるように配慮している。原則は、シフト作成前に提示するようにしている。自由に持ち出せる、CDや本を準備し、休み時間や休日に利用しやすい環境を作っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議を重ね、相互訪問実習が実現のものとなった。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員の出入り口にある部屋にデスクを置き、何時でも話を聞いてもらえる雰囲気作りを心がけてくれている。必要があれば、カウンセリングの時間を設けてくれている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に、日報や、個人記録に目を通しコメントを記入している。管理者の報告の中で、必要に応じて直接指導や、励ましの言葉掛けを心がけてくださっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族や親族からの相談が主であるから、そこでなるべく詳しい情報を集め、事前訪問の際の話のきっかけや、警戒心を解いていただく手段として用いている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学の時点より、傾聴を主におくことに心がけている。家族と本人とできれば別々の時間をとれるように		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が次の環境での生活に支障が無いことを確かめ、時々会いに行っている。退所時の会話の中で、必ず「いつでも相談があれば、連絡ください。」という言葉伝えるようにしている。最近の例で、職員の提案から利用者同士が手紙のやり取りをしているケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア会議にて、各自の持ち寄った情報を基に今の状態の把握とケアのあり方を話し合っている。職員は、入浴や散歩等1対1になるときにじっくり話を聞いたり、して、今の情報を得ている。家族の面会時に希望や、思いを気軽に言えるような雰囲気作りに心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、出来るだけの情報を集め、職員会議にて情報の共有を行っている。記録は職員が何時でも見れるところに設置している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌、個人記録を改善することで、利用者の一日の様子が、より把握しやすくなった。伝言板での、職員の自由書き込みも、情報の共有のために有効活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議で出てきた意見や提案近況報告を基に討議して、まず期間を決め実行して様子を見ることにしている。その上で介護計画の見直しや追加を行うようにしている。	○	家族の参加の担当者会議を計画中
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	大きな変化には、家族との相談の上変更しているが、そのほかは、臨機応変に、対応方法を変えて様子を見ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙改善後、利用者の言葉や表情を記録として残すようになり、より状況の変化がわかり共有しやすくなっている。職員の視点にも変化が出てきているように感じる。職員は、常にメモを携帯している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の職員の専門的知識や情報を得ることで、日常の業務にいかしている。同法人のデイサービスに、職員と一緒に遊びにいける体制をとっている。家族の要望があれば、何時でも宿泊は可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の誕生日や、その他の行事には、地域のボランティアの方による演芸などに声かけをして、来ていただいている。自治会長さんの呼びかけで、地域の消防団との合同避難訓練や、住民による緊急連絡網の発足、地域事業社の従業員による緊急援助体制を確立することができた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の要望に応じ、他の施設の担当者との連絡や、情報は常に準備している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会において、意見や指導を仰いでいる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、受診は家族同席をお願いして、共通の情報把握に努めている。かかりつけ医は、家族の希望で決めている。薬のみの場合、かかりつけ医に、状況をTELにてお知らせしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>立地条件が悪い為、24時間体制で往診可能な先生を頼むには、かなりの金銭的負担を家族の方をお願いしなければならない状況である。その他の現状も含め難しい問題ではあるが、早急に検討していく課題として掲げている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者一人一人に応じた対応が出来ていると思う。時として、密になりすぎて、不適正な言葉を使う場が見られると、その都度職員同士で注意しあっている。外部との交流の際トラブルがないように配慮している。部屋名や、写真の張り出しは家族の了解済みである。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に希望を聞き、職員が1対1で外出対応できる日を設けている。選択肢を簡素化し、選びやすくなるように配慮した言葉掛けになるよう心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定どおりになる日は無いくらいに、その日の状況で活動内容が変わっていく。言葉で表現できない方には、表情や雰囲気や体調を見て、職員間で話し合い本人に確認をしてから、その日の活動を定めるようにしている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	各部屋には、洗面台を設置している。ふた月に1回開所当初から訪問の理容師さんが、希望される方のカットをされている。行きつけの美容院希望者には職員が送迎をする。季節の洋服を適量タンスに出しなるべく御自分で選べるように配慮している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の身体状況に応じて、食事の形態や、食器、配膳の位置等、変えている。献立は季節の食材を使い、立てている。自家菜園の野菜を使う時は、利用者に収穫していただき、食べる時に必ず説明をするようにしている。月に二回利用者の手作り海苔巻きの日がある。朝食後の茶碗洗いを自分の仕事としている方がいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は、家族、医師と相談の上、梅酒を準備し、希望があればお出している。個人で保管しているおやつは、職員が把握し、定期的に確認をしている。季節のおやつは、利用者と一緒に手作りをさせていただいている。買物と一緒にいった時は、選んでもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターン表を7ヶ月つけることで、大方の排泄パターンがわかってきた為、トイレ誘導にて、快の状況が長く続くようになった。排便のパターンも把握でき、水分補給、繊維食物摂取、最後の手段としての服薬で、排泄を促すようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として、毎日入浴。体調や活動内容を見て、時間や順番の調整は職員がする。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	部屋以外の和室に横になれるスペースを準備している。シーツ交換、布団干し、室温の管理等気持ちよく寝ていただけるように、配慮している。夜間の脱水対策として、スポーツ飲料を2倍に薄めたものを、枕元に設置し、トイレ誘導時必ず飲んでいただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「恥をかせない」をモットーに一人ひとりが主人公になれる場面を、意図的に設定するような言葉かけをしている。おやつづくり、洗濯干し、たたみなどは声かけしなくても手伝っていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、9人中3人の方が、御自分で、お小遣い程度を所持しており、外出の際自由に買物をされている。その他の方はその都度、お渡して自分で支払いをしていただいていたが、徐々に難しくなってきた。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭には自由に入出入りできるようになっている。玄関の施錠は夜間のみで、急な外出には、センサーで感知するようになっている。散歩は、安全面を考えその方のスピードに合わせてられるように1対1で出かけることが多かった。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでも利用できるように、家族にも了解を得ている。退所された方と利用者との、手紙によるやり取りや、家族への絵はがきによる関りももたれている。趣味の絵画を展開するような言葉賭けを心かけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設定していない為、夜間の面会もある。その時の雰囲気に応じて、部屋での時間であったり、広間で他者を巻き込んだふれあいの時間であったりするように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて研修をし、日常のケアにおいて確認を合っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全員が理解して、実践している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全員が意識を持って把握し確認しあっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて、必要があれば預かり、何時でも使用できることを伝えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修で学んだものを何時でも見れる様にマニュアル本としてファイルしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月の避難訓練の後、緊急時の対応の研修をしている。地域に設置されている、AEDを実際借りに行き、使用しての訓練を実施した。緊急連絡網を電話機の傍の誰でも見えるところに設置してある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月の避難訓練は、職員全員が交代で実施している。一人ひとりの状態に応じた避難方法で臨機応変に実施している。地区の方々との連携も取れており、合同訓練が実行できた。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に今の状況におけるリスクを説明し、緊急の搬送先や、連絡先の確認をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	出勤時必ず個人記録、伝言板に目を通し、状態の把握をする。バイタルチェックや入浴時の皮膚の観察食事、水分量の確認をしてい全員が、いつもの状態を把握することにより、全員が少しの変化も見逃さないようにしている。一人だけで判断せず、複数で確認するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が、一日ごとに薬をまとめ、夜勤者が、次の日の薬をセットすることで、全員が理解できるシステムにしている。確認の為の一覧表を張り出している。頓服や、臨時の薬は、確認が取れるように印をつけ間違いを未然に防ぐ工夫をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は毎日、排便チェック表の確認、食事や水分摂取の観察、行動の観察等で、対応を変え、毎日のリハビリ体操で体をほぐし、便秘予防の対策をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの方法で、食後の口腔ケアを実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々変化していく利用者に対して、固定した考えではなく、臨機応変に接している職員の姿勢が見られます。経験年数は短いけれど、意欲と気力でカバーしています。職員会議でも積極的な意見交換の場となり、そこから業務に発展し各職員の自信となってきているようです。これからの課題として、自己研鑽に励み認知症の専門職としての自覚と責任を持っていくことです。レベルの下がっていかれる利用者の方と真剣に関わり寄り添っていきたいと思っています。主治医と家族との連携を強く感じています。増す。